

平成20年度高等学校入学者選抜審議会第2回県立高等学校入学者選抜の在り方検討小委員会開催要項

宮城県教育委員会

1 日 時 平成20年9月30日(火) 午後2時から午後4時まで

2 会 場 県庁16階 教育委員会会議室

3 次 第

(1) 開 会

(2) あいさつ

(3) 議 事

イ 現行高等学校入学者選抜制度の検証及び論点整理

ロ その他

(4) 閉 会

平成20年度入学者選抜審議会第2回県立高等学校入学者選抜の在り方検討小委員会 名簿

(小委員会)

No.	委嘱・任命	氏名	現職	備考
1	委嘱	菅野 仁	宮城教育大学教育学部教授	
2	委嘱	小平 英俊	宮城県PTA連合会副会長	
3	委嘱	鹿野 良子	仙台市立加茂中学校長	
4	任命	齋藤 公子	宮城県石巻西高等学校長	
5	委嘱	榎木 喜一	気仙沼市教育委員会学校教育課長	
6	委嘱	木島美智子	塩竈市立第三中学校教頭	
7	任命	山内 明樹	宮城野高等学校教頭	
8	任命	小畑 研二	仙台教育事務所次長	欠席

※1～4 審議会委員 5～8 専門委員

(教育庁)

教育企画室	教育改革班室長補佐兼企画員	海原 孝
義務教育課	指導班副参事	桂島 晃
	〃 課長補佐	穴戸 健悦
高校教育課	課長	高橋 仁
	副参事兼課長補佐	村上 靖
	教育指導班課長補佐	高橋 義典
	教育指導班主幹	齋藤 順子
	〃 主幹	河本 和文
	〃 主幹	岡 邦広
	〃 主幹	岡 達三
	〃 主幹	佐藤 芳枝
	〃 主幹	伊藤 俊
	〃 主任主査	石澤 浩二
	職業教育班主任主査	佐々木武弘

平成20年度高等学校入学者選抜審議会
第2回県立高等学校入学者選抜の在り方検討小委員会

資料

目次

I	現行公立高校入試制度に関する調査について P	1
II	現行高等学校入学者選抜の主な課題について		
1	推薦入試の在り方について P	5
2	一般入試の在り方について P	5
3	選抜資料としての調査書の活用について P	6
4	生徒の多面的な能力を評価するための入試、複数の受検機会について P	6

高 号 外
平成20年9月12日

県立高等学校長 殿

高校教育課長
(公印省略)

現行公立高等学校入学者選抜制度に関する調査について (通知)

このことについて、今後の入学者選抜制度改善のための検討材料とするため調査を実施します。については、下記のとおり送付しますので、回答用紙の内容をエクセルファイルの様式1及び様式2に入力の上、様式1及び様式2を平成20年10月3日(金)までに、高校教育課あて電子媒体で提出願います。

記

- | | | |
|-----|-----------------------|----|
| 1 | 調査用紙 | 1部 |
| 2 | 回答用紙 | 1部 |
| 3 | 提出物 | |
| (1) | 個別回答表(高)(様式1)エクセルファイル | 1部 |
| (2) | 個別回答表(高)(様式2)エクセルファイル | 1部 |

※ エクセルファイルは、「入力について」「個別回答用紙(高)(様式1)」「個別回答用紙(高)(様式2)」の3枚のシートとなっています。最初に留意事項等が記載されている「入力について」を確認願います。

【担当】

高校教育課教育指導班

主幹 岡 邦 広

Tel 022-211-3624

Fax 022-211-3696

E-mail ko-rika@pref.miyagi.jp

現行公立高校入試制度に関する調査について

※ 高校入試は、中学校教育の総括と高等学校教育への円滑な接続という大切な役割を担うとともに、中学生の進路目標の実現、「確かな学力」の定着という点においても大きな意味を持つものと考えられます。このことを踏まえ、現行の高校入試について中学校及び高等学校それぞれから意見をお聞きし、今後の入学者選抜制度改善のための検討材料としたいと考えております。

つきましては、Q1～Q17の設問について、学校としてのお考えを別紙の回答用紙に御記入ください。

1 一般入試について

Q1 各教科の学力検査問題の構成について、適切と考えられるものを次の中から選んでください。

- ア 現状の質・量でよい
- イ 量を減らし、思考力・表現力を問う
- ウ 基礎基本問題を中心として量を増やす
- エ その他（ ）

Q2 1教科あたりの検査時間について、最も適切と考えられるものを次の中から選んでください。

- ア 50分（現状）
- イ 45分
- ウ 40分以下
- エ 55分以上

Q3 数学と英語で現在実施している学校選択問題についてどのように考えますか。次の中から選んでください。

- ア 継続して実施すべき
- イ 不要
- ウ 改善すべき

Q3-2 Q3で「ウ」と回答の場合、改善すべき内容を記入してください。

Q4 調査書点と学力検査点をそれぞれ10段階に区分して作成する相関図を使用した現在の選抜方法について、どのように考えますか。次の中から選んでください。

- ア 現状を継続すべき
- イ 改善すべき

Q4-2 Q4で「イ」と回答の場合、改善の方向はどれが適切と思えますか。次の中から選んでください。

(複数回答可)

- ア 調査書と学力検査の割合について6：4～4：6まで学校の裁量で幅を持たせる
- イ 調査書と学力検査の割合について9：1～1：9まで学校の裁量で幅を持たせる
- ウ 調査書点に県教育委員会の算式による補正を加える
- エ 学力点と調査書点の合算による選抜
- オ 学力点のみでの選抜も一部可能とする
- カ 調査書点のみでの選抜も一部可能とする

2 推薦入試について

Q5 現行の推薦入試についてどのように考えますか。次の中から選んでください。

- ア 特に問題なし
- イ デメリットもあるがメリットの方が大きい
- ウ メリットもあるがデメリットの方が大きい

Q6 現行の推薦入試の中で、普通科の推薦入学者の割合についてどのように考えますか。次の中から選んでください。

- ア 現行の30%以内が適当
- イ 10%程度まで減らすべき
- ウ 普通科の推薦を廃止すべき
- エ 上限を無くし割合は学校に任せるべき

Q7 現行の推薦入試の中で、体育及び美術科を除く専門学科並びに総合学科における推薦入学者の割合についてどのように考えますか。次の中から選んでください。

- ア 現行の40%以内が適当 イ 20%程度まで減らすべき
ウ 専門学科の推薦を廃止すべき エ 上限を無くし割合は学校に任せるべき

Q8 現行の推薦入試の中で、体育及び美術科における推薦入学者の割合についてどのように考えますか。次の中から選んでください。

- ア 現行の60%以内が適当 イ 30%程度まで減らすべき
ウ 体育・美術科の推薦を廃止すべき エ 上限を無くし割合は学校に任せるべき

Q9 推薦入試の選考資料として、調査書・面接・小論文・作文、実技等に加えるべきものがあるとすればどのようなものがあると思いますか。御意見を記入してください。

Q10 現行の推薦入試制度全体について、どのように考えますか。次の中から選んでください。

- ア 継続すべき イ 廃止すべき ウ 改善すべき

Q10-2 Q10の回答理由にあてはまるものを次の中から選んでください。(複数回答可)

- ア 中学校生活を評価できるから
イ 意欲の高い生徒が選抜されるから
ウ ペーパーテスト以外の力を評価できるから
エ 推薦の基準が不明瞭であるから
オ 中学校の授業時間確保の障害になるから
カ 事務手続が非常に煩雑であるから
キ 早期合格の手段となるから
ク 学力向上の障害となるから
ケ その他 ()

Q10-3 Q10で「ウ」と回答した方は、どのような改善の方向が適当と考えますか。次の中から2つ選んでください。

- ア 校長推薦を必要としない自己推薦方式
イ 文化・運動部等で明確な実績のある者のみを推薦する方式
ウ 推薦に加え3教科程度の学力検査を課す方式
エ 現行の推薦入試の対象を専門学科のみに限定する
オ 新たな特色のある選抜方式を導入する
カ その他 ()

3 第二次募集について

Q11 第二次募集は必要だと考えますか。次の中から選んでください。

- ア 継続すべき イ 廃止すべき ウ 改善すべき

Q11-2 Q11で「ウ」と回答の場合、改善すべき内容を記入してください。

Q12 第二次募集の選抜資料として何が適当だと思いますか。次の中から選んでください。

- ア 調査書のみ イ 調査書+面接 ウ 調査書+学力検査
エ 調査書+面接+学力検査 オ その他 ()

4 調査書について

Q13 現在使用している調査書の記載事項についてどのように考えますか。次の中から選んでください。

ア 現状を継続すべき イ 改善すべき

Q13-2 Q13で「イ」の回答の場合、次のア～キのうち調査書の記載事項として特に改善が必要と考えるものはどれですか。(複数回答可)

また、そのうち()内の改善の方向はどれがよいか、①～③の中から選んでください。

ア 観点別学習状況 (①廃止 ②簡略化 ③詳述化)
イ 各教科の評定 (①廃止 ②簡略化 ③詳述化)
ウ 選択教科の評定 (①廃止 ②簡略化 ③詳述化)
エ マルA特記事項 (①廃止 ②簡略化 ③詳述化)
オ 行動の記録 (①廃止 ②簡略化 ③詳述化)
カ 欠席状況 (①廃止 ②簡略化 ③詳述化)
キ その他()

Q14 現在の調査書「評定」の活用の仕方をどのようにすればよいと考えますか。次の中から選んでください。

ア 1～3学年分(現行) イ 3学年分のみ ウ 2, 3学年分のみ
エ その他()

5 入試の実施時期と実施回数について

Q15 現在実施している推薦入試・一般入試・第二次募集の3回の選抜の回数について、どう思いますか。次の中から選んでください。

ア 現行のままで3回が適当 イ 推薦入試の形態を変えて3回必要
ウ 一般と二次募集の2回が適当 エ 一般のみの1回が適当

Q16 3回の入試を行うとした場合、1回目の実施時期はいつ頃が適切と思いますか。次の中から選んでください。

ア 1月末(現行) イ 2月上旬 ウ 2月下旬 エ その他()

Q16-2 2回目の実施時期はいつ頃が適切と思いますか。次の中から選んでください。

ア 3月上旬(現行) イ 2月下旬 ウ 3月中旬 エ その他()

Q16-3 3回目の実施時期はいつ頃が適切と思いますか。次の中から選んでください。

ア 3月17～20日(現行) イ 3月21～24日 ウ 3月25～28日
エ 3月29～31日 オ その他()

6 高校入試全般について

Q17 高校入試の改善にあたって、最も重視すべきことはどのような点だと考えますか。具体的に記述してください。

御協力ありがとうございました

3 選抜資料としての調査書の活用について

- (1) 調査書（評定）の選抜資料としての客観性の確保が一層必要という意見
 - ・絶対評価になって、評定が高くなっているのではないか、あるいは中学校間で評定の付け方にばらつきがあるのではないかという意見

- (2) 推薦入試・一般入試それぞれにおける調査書の活用の在り方と必要な記載項目を見直すべきという意見
 - ・学力点と調査書点の比重に学校裁量幅を設けるべきという意見
 - ・マルA、選択科目、観点別評価等の取扱い

4 生徒の多面的な能力を評価するための入試、複数の受検機会について

- (1) 現行入試の期間や日程についての意見
 - ・推薦入試の日程が早いという意見
 - ・授業時間数確保のため一般入試の日程をもっと繰り下げるべきという意見
 - ・第二次募集処理期間が短いという意見

- (2) 入試で重視すべき観点と受検機会についての多様な意見
 - ・複数の受検機会は、制度の複雑化、入試の長期化・煩瑣化に繋がるのでシンプルな入試がよいという意見
 - ・学力向上のためには、学力検査による一般入試だけでよいという意見
 - ・選抜尺度の多元化、選抜方法の多様化を図るため、また受検生が入りたい高校を選んで受検するためには複数の受検機会の保障が必要という意見

Ⅱ 現行高等学校入学者選抜の主な課題について

1 推薦入試の在り方について

- (1) 中学校長の推薦を要することに伴う課題が多いという意見
 - ・受検機会の差
 - ・中学校における校内選考の困難性（推薦出願希望者の多さ，出願資格，校内選考基準，選考結果の生徒・保護者への説明）
 - ・中学校による校内選考の違い（選考基準，方法）
- (2) 全合格者に占める推薦合格者の割合が約30%になっていることに伴い課題があるという意見
 - ・学力検査を行わず調査書，面接，作文等によって選抜する推薦入試での合格を目指し，教科学習が不十分になるという意見
 - ・推薦合格後，卒業式までの中学校の学習指導の困難性
 - ・推薦本来の趣旨を逸れ早期合格の手段化
- (3) 選抜の在り方に課題があるという意見
 - ・多面的な評価に基づく選抜が，調査書の評定のみで選抜されているという印象
 - ・選抜の客観性，透明性の確保が難しいという意見
- (4) 推薦入学者の高校入学後の状況
 - ・推薦入学者は大学進学の際も一般入試を避ける傾向があるという意見

2 一般入試の在り方について

- (1) 適性の質・量の学力検査問題の在り方，特に学校選択問題を見直すべきとの意見
 - ・問題を読む分量が多く，じっくり考えさせるものとなっていないという意見
 - ・選択問題ではなく共通問題の中でうまく難易度の差をつけるべきという意見
- (2) 調査書と学力検査の結果に基づいて作成した相関図により総合的に審査する選抜方法に対する意見
 - ・一度付いた評定値が変わることはなく挽回不能という意見
 - ・相関図表の妥当性を問う意見
- (3) 傾斜配点について
 - ・傾斜配点とはどのようなものか。

平成20年度高等学校入学者選抜審議会
第2回県立高等学校入学者選抜の在り方検討小委員会

補足資料

目 次

1	中学校長会からの意見P	1
2	推薦入試の在り方についてP	3
3	一般入試の在り方についてP	9
4	選抜資料としての調査書の活用についてP	12
5	生徒の多面的な能力を評価するための入試、複数の受検機会についてP	13

1 中学校長会からの意見

①

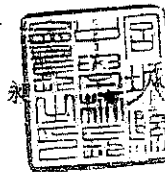
平成18年2月28日

宮城県教育委員会教育長

白石 晃 様

宮城県中学校長会

会長 早坂



宮城県公立高等学校入学者選抜制度のあり方について（お願い）

日頃より宮城県中学校長会の諸々の教育課題にご指導いただきありがとうございます。さて、平成17年12月8日付け、高第468号、平成18年度高等学校入学者選抜の公正な実施に関する要請書にご回答をいただき、平成19年度から公立高等学校入試制度につきましては検討していただけることに感謝申し上げます。

つきましては、入試制度に関する検討する機会がありましたら、下記の要望事項に対しまして検討していただければ幸いです。

記

1 望ましい入試制度の在り方について

- ① 入試選抜前期、後期の2回の受検機会の拡大

2 望ましい入試制度の在り方について

- ① 公正かつ適正な選抜方法と選抜尺度の観点から推薦枠の検討
- ② 推薦入試制度について
- ③ 推薦入試時期の繰り下げ
- ④ 自己推薦制の導入

3 入試事務の簡素化

4 入試結果発表の改善

※ 以上、4項目につきましても詳細は別紙参照をお願いいたします。

- ① 公立高等学校推薦入試制度の改革に向けて（県下中学校長アンケートによる）
- ② 東北六県の入試情報

②

入試制度に関する意見

H20.1.30

宮城県中学校長会

1 入試の回数

- (1) 現行は推薦入試、一般入試、第二次募集の3回であるが、推薦入試は各中学校から推薦された一部の生徒なので、ほとんどの生徒は一般入試、第二次募集の2回である。
- (2) 公平性から考えて、一般入試、第二次募集の2回でよい。

2 内容

(1) 推薦入試（資料別添）

- ① 「特色ある生徒を生かす」「物差しの多様化」「日常的な学力・意欲・人物を評価できる」などの長所がある。
- ② 「学力を中心に推薦するなど制度が形骸化している」「本来高校が行うべき推薦人数など中学校に依存している」「推薦書等入試手続きの煩雑化」「中学校が第一次選考の場になっている」などの短所がある。
- ③ 中学校長会の意見としては、メリットとデメリットを比較した場合、推薦入試制度の廃止の声が圧倒的に多い。

(2) 一般入試

- ① 控え室などの配慮がなされている学校が多い。
- ② 特に問題はない。

(3) 第二次募集

- ① 合格発表までの期間が短かくてよい。
- ② 特に問題はない。

3 日程

- (1) 私立高校との調整を図る必要がある。
- (2) やむを得ない日程だと思う。

4 その他の入試改善に向けた御意見

(1) 地区外・県外からの受検について

- 特になし。

(2) 通信制課程の入試について

- 特になし

(3) 特に配慮を要する者等の取り扱いについて

- 配慮されている。

(4) 県境隣接協定について

- 特になし。

(5) その他

① 入試問題について

各教科の問題数や国語、英語の長文が多く、じっくり考える時間が少ない。数学・英語のA・B問題は労多くして易少なし、問題の難易度を工夫すれば対応可能である。

② 入試手続きについて

調査書の公私高校の共通性等改善はされてきてはいるが、中学校における入試事務はまだまだ煩雑である。今後、調査書への記入内容を必要最小限にし、様式をA4判にするなど工夫改善を図るべきである。

2 推薦入試の在り方について

①出願資格、選抜方法等（平成20年度選抜要項より）

選抜方針

2 推薦入試

高等学校長は、学校・学科の特色に応じて、推薦入試を実施することができる。この場合、推薦書を基に、調査書のみ審査、あるいは調査書に、面接、実技（体育及び美術に関する学科の場合）、作文等の結果を合わせた審査を行うことができる。

1 推薦入試の実施

- (1) すべての高等学校は、推薦入試を実施することができる。（略）
- (2) 推薦入試を実施する高等学校は、「本校の期待する生徒像」等を、各高等学校のホームページに掲載すること。
- (3) 推薦入学者の割合は、普通科にあつては募集定員の30%以内（コースにあつては募集定員の40%以内）、農業、工業、商業、水産、家庭、看護、理数及び英語に関する学科並びに総合学科にあつては募集定員の40%以内（コースにあつても募集定員の40%以内）、体育及び美術に関する学科にあつては募集定員の60%以内とする。
- (4) （略）

2 出願資格

推薦入試に出願できる者は、次の(1)又は(2)に該当する者とする。

(1) 次の条件を満たし、中学校長の推薦を得た者

ア 平成20年3月に本県内の中学校を卒業する見込みの者であること。

ただし、次の(ア)、(イ)の者を除く。（省略）

イ 当該高等学校、学科・コースを志望する動機や理由が明白で適切であること。

ウ 当該高等学校、学科・コースに対する適性及び興味・関心を有すること。

エ 中学校の学習や生活に意欲的に取り組み、人物が優れていること。

オ 調査書の記録について、その内容が優良であること。

上記オの「優良」とは、生徒の多様な個性を重視する観点に立って、調査書の「1 各教科の学習の記録」の「(1) 観点別学習状況」及び「(2) 評定」、「2 総合的な学習の時間の記録」、「3 スポーツ活動、文化活動、社会活動、ボランティア活動の特記事項」、「4 特別活動等の記録」等の各記載内容に関して、そのすべて又は一部が優れていることである。

(2) 定時制課程の推薦入試（省略）

9 選抜について

(1) 推薦入試の選抜については推薦書を基に、調査書のみ審査、あるいは調査書に、面接、実技、作文等の結果を合わせた審査を行うものとする。

(2) 推薦入試を実施する高等学校においては、推薦入学者選抜のための委員会を設置して、選抜の厳正、公正を期すること。（略）

②中学校3年生の進路指導関係スケジュール

時 期	内 容	
4月		
5月	進路希望調査（～6月）	
6月		
7月	募集定員等発表（上旬） 三者面談 中学生向けオープンスクール・合同相談会	
8月	中学生向けオープンスクール・合同相談会	
9月	合同相談会	
10月	入試要項配布（上旬） 入試事務説明会（下旬） 保護者説明会・校長の方針説明（下旬） 調査書等作成委員会立ち上げ（下旬） 進路希望調査・推薦希望調査（下旬）	
11月	三者面談等（上旬）	
12月	推薦希望・志願校確認（上旬） 調査書下書き準備（上旬） 推薦者決定（中旬） 面接・作文等指導（中旬） 推薦書・調査書作成（下旬）	
1月	予備調査・推薦出願書類提出（中旬） 推薦・連携入試（下旬） 一般入試調査書作成（下旬） 一般入試志願校最終確認（下旬）	《私学推薦》
2月	推薦・連携合格発表（上旬） 不合格者面談・志願校決定（上旬） 一般入試出願書類提出（中旬）	《私学一般入試》
3月	一般入試学力検査（上旬） 一般入試合格発表（中旬） 不合格者面談・志願校決定（中旬） 第二次募集出願書類提出（中旬） 第二次募集検査・合格発表（下旬）	

③本県における学科別推薦開始時期、推薦枠(%)の拡大の変遷

学科 年度	普通	普通 (コース)	農業	工業	商業	水産	家庭	看護	理数	英語	体育	美術	総合
S 5 3	—	—	～ 20	—	—	～ 20	—	—	—	*	*	*	*
6 1	—	—	〃	—	—	〃	—	—	—	*	～ 30	*	*
6 2	—	—	〃	—	～ 20	〃	～ 20	—	—	～ 30	～ 40	*	*
6 3	—	—	〃	～ 20	〃	〃	〃	—	～ 30	〃	〃	*	*
H 元	—	—	〃	〃	〃	〃	〃	～ 20	〃	〃	～ 50	*	*
5	—	—	〃	〃	〃	〃	〃	〃	～ 40	～ 40	〃	*	*
6	～ 30	～ 40	～ 40	～ 40	～ 40	～ 40	～ 40	～ 40	〃	〃	～ 60	*	*
7	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	～ 60	～ 40
8	定時制の社会人推薦 30%以内												

*対象学科なし —推薦入試実施せず

・昭和53年度入試から農業科及び水産科の自営者養成学科で推薦が導入され、昭和61年度以降他の学科にも順次導入され枠も拡大したが、平成7年度以降は学科・推薦枠に変化はない。

④推薦枠を上限まで設定していない学校・学科（平成20年度入試）

学校名	学科・コース	割合
仙台二	普通科	20%程度
泉館山	普通科	25%程度
塩釜	商業科	30%程度
石巻市立女	普通科・人文科学コース	30%程度
石巻市立女	普通科・生活教養コース	30%程度
志津川* ¹	普通科	5%以内
志津川* ¹	情報ビジネス科	10%以内
名取(定)	普通科 / 夜	15%程度
仙台二工(定)* ²	建築土木科 / 夜	20%程度
仙台二工(定)* ²	機械科 / 夜	20%程度

*¹ 連携型入試実施

*² 仙台市立高校

・連携型入試枠を拡大し推薦枠が狭まった志津川高校と学校・学科改編校を除き、平成17年度入試以降、各高校の推薦枠に変化はなく、推薦枠を上限まで設定していない学校・学科は上記のみ。平成20年度入試では、全日制の147学科中140学科(95.2%)、定時制20学科中17学科(85.0%)が、推薦枠を上限に設定した。

⑤中学校から推薦できる人数制限撤廃前後の推薦出願動向

※全体の出願動向

年度	推薦枠	出願者数	倍率
18	5,634	7,056	1.25
19	5,538	7,055	1.27
20	5,382	6,605	1.23

※推薦人数の制限を撤廃した14校の出願動向

学校	出願者数			19-20 増減	18-19 増減	
	H20	H19	H18			
中部南	名取北	121	152	137	-31	+15
	亘理	73	80	80	-7	±0
	仙台南	146	156	87	-10	+69
	仙台南	168	215	174	-47	+41
	仙台西	148	130	113	+13	+17
中部北	仙台第二	163	180	134	-17	+46
	仙台第三	152	161	177	-9	-16
	第一女子	202	189	214	+13	-25
	泉	188	161	194	+27	-33
	泉館山	160	182	130	-22	+52
	宮城野	201	172	185	+29	-13
	市立仙台	135	185	158	-50	+27
定	多賀城	150	139	114	+11	+25
定	仙台第二工業	0	4	2	-4	+2

- ・平成19年度入試から、中学校から推薦できる人数の制限を撤廃した。撤廃前後で全体としては倍率に大きな変化はなく、制限を撤廃した後も推薦出願の急増はなかった。むしろ、平成20年度入試では、全体の募集定員減少に伴う推薦枠の減少以上に推薦出願者が減少している。
- ・平成18年度まで人数制限を設けていた14校の制限撤廃後の変化は、学校及び年度によって増減まちまちであり、一定した傾向はみられない。

⑥推薦募集割合の全国状況(平成19年度入試・全日制)

No	都道府県	普通科		専門学科
		推薦募集割合の基準	実施校数 (実施校数/ 普通科校数)	推薦募集割合の基準
1	北海道	20%程度(3学級以下:30%程度)	73/176	50%程度(農・水:100%)
2	青森			
3	岩手	スポーツ・芸術で10%以内	38/39	スポーツ・芸術で10%以内(※H20から体・美:10%以内)
4	宮城	30%以内(コース制:40%以内)	62/62	40%以内(体・美:60%以内)
5	秋田			
6	山形	20%以内	31/31	40%以内(体:70%程度)
7	福島			
8	茨城	30%上限(コース制:50%上限)	81/81	50%上限(衛・福・音・美:70%上限)
9	栃木	30%程度	40/42	30%程度(体:50%程度上限)
10	群馬			
11	埼玉			
12	千葉			
13	東京	10%~25%	—	20~50%
14	神奈川			
15	新潟	15%以内・30%以内・50%以内・50%超	55/55	15%以内・30%以内・50%以内・50%超
16	富山	10%以内(コース制:30~50%)	17/28	30~50%(総:30~40%, 理数・国際:20~40%, 音・体:60%以内)
17	石川	20%以内(2学級以下:30%以内)	—	10~50%
18	福井	指定する学校でスポーツ, 芸術で数名から20数名程度	10/30	25~60%
19	山梨			
20	長野			
21	岐阜			
22	静岡			
23	愛知	10~15%程度	114/114	30~45%程度
24	三重	10~75%	19/36	30~60%
25	滋賀	10~30%	20/33	30~50%(体・美:75%)
26	京都	普通科専門系コースのみ 30・50・70%	14/45	30・50・70%
27	大阪			
28	兵庫	50%以内	7/107	50%以内(一部:100%)
29	奈良			
30	和歌山			
31	鳥取	原則50%以内	6/10	原則50%以内
32	島根	原則50%まで	10/24	原則50%まで
33	岡山			
34	広島	20%以内(1学級:30%以内, コース制・総合選抜制:50%以内)	60/68	50%以内
35	山口	otte	32/39	50%以内(体:70%以内)
36	徳島			
37	香川			20%以内~30%以内が多い
38	愛媛	5~15%	39/39	20~30%(理数:5~15%)
39	高知			
40	福岡	約15%	60/60	約27%
41	佐賀	15~40%	6/16	15~40%(体:50%, 芸・理数:60%以内)
42	長崎	5~30%	33/36	10~50%
43	熊本			
44	大分	10%以内	26/26	15%以内(総:30%以内, 音・美・国際・外国語:50~100%)
45	宮崎	10~50%	17/17	10~50%
46	鹿児島	10%以内	44/44	30%以内(看:60%以内, 体:80%以内, 音・美75%以内)
47	沖縄	20%以内	60/60	30%程度(体・芸:50%以内)

※空欄になっている県は, 中学校長による推薦とは別の入試を実施

・県によっては, 推薦募集割合が設定されていても, 推薦入試を実施していない学校もある。

⑦推薦入試における選抜資料活用状況(平成20年度入試・全日制78校147学科)

選 抜 資 料		学科数
調査書のみ		1
調査書+	個人面接	60
	集団面接	15
	英語面接を含む個人面接	1
	自己表現を含む面接	1
	作文	5
	個人面接+作文	48
	集団面接+作文	2
	口頭試問を含む個人面接+作文	9
	個人面接+作文+口頭試問	2
	個人面接+実技	2
	集団面接+実技	1
合 計		147

- ・選抜資料については各学校の判断であるが、調査書+個人面接、調査書+個人面接+作文により選抜を行っている学科が多い。

3 一般入試の在り方について

①学校選択問題について

※経緯・目的

入学者選抜方針の「2 学力検査」の(3)に「生徒の多様な能力・適性等が評価できる適切な質と分量の問題になるよう配慮する」を受け、各学校が学校選択問題を使うことによって、これまで以上に受検生の多様な能力・適性を正しく捉えることができるという判断から英語及び数学の一部に学校選択問題を導入した。

※問題の性格

A問題：基礎・基本を重視した設問を多く含む大問

B問題：思考力や表現力をみる設問を多く含む大問

(※H20入試：数学—大問5問中1問，英語—大問4問中1問)

※A B問題の選択状況（平成20年度入試）

〈全日制〉

①A B選択状況

	A問題		B問題		合計	
	学校数	受検者数	学校数	受検者数	学校数	受検者数
数学	58	9,492	20	4,294	78	13,786
英語	54	8,560	24	5,126	78	13,686

②英語・数学の選択の組合せ（学科数）

		英語		
		A問題	B問題	合計
数	A問題	108	6	114
	B問題	3	30	33
学	合計	111	36	147

〈定時制〉 13校20学科は数・英ともにすべてA問題

※一般入試平均点

	国語	社会	数学		理科	英語	
			数学A	数学B		英語A	英語B
H14	57.4	50.5	45.2		47.8	57.7	
H15	54.4	50.4	51.3		60.6	63.5	
H16	54.7	52.2	30.3	47.8	49.1	41.6	57.1
H17	52.7	55.1	31.5	51.6	49.2	33.3	50.8
H18	53.0	48.5	27.1	39.1	48.4	36.3	54.3
H19	50.6	50.1	32.5	46.3	46.6	37.9	62.0
H20	62.1	56.2	43.6	63.6	53.6	48.9	70.4

・100点満点中選択問題の配点は、平成20年度入試で数学25点，英語30点。共通部分の配点が高いこともあって、結果としては、英語・数学ともに選択A問題を含む問題の平均点のほうが選択B問題を含む問題の平均点よりも低くなっている。

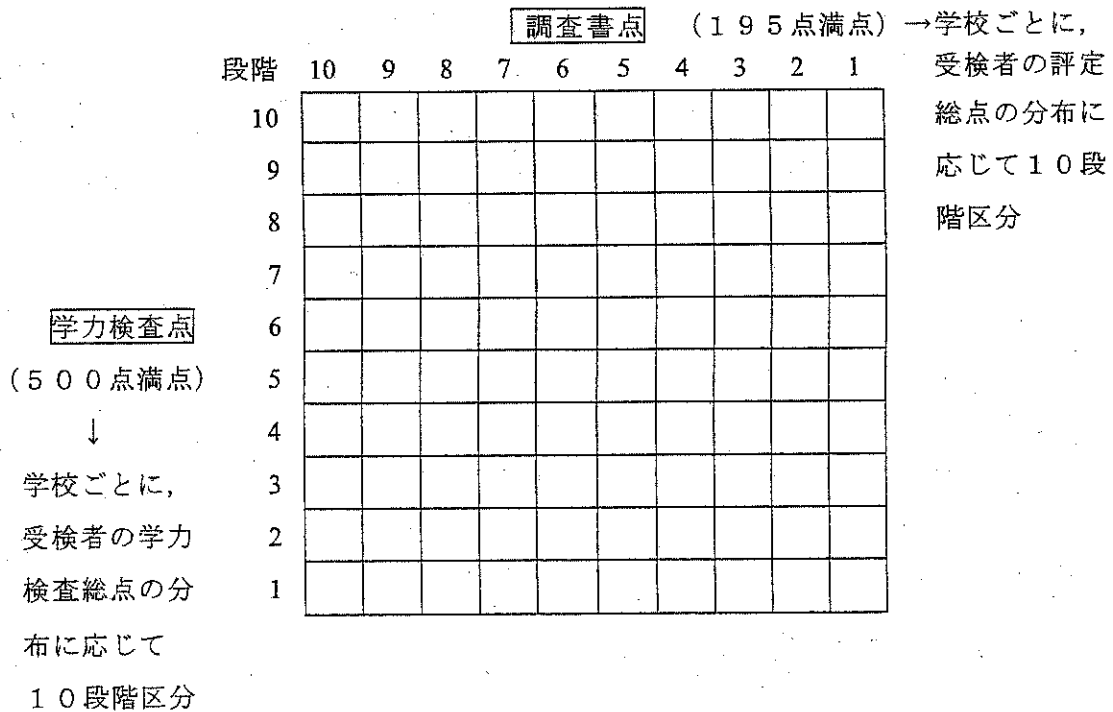
② 相関図表について

※平成20年度選抜要項より

10 選抜について

- (1) 調査書及び学力検査の結果に基づいて総合的に審査する。ただし、体育及び美術に関する学科にあつては、学力検査の結果に実技の結果を加えることができる。
- (2) 調査書の「1 各教科の学習の記録」の「(2) 評定」から算出した調査書点と学力検査点の総点を、それぞれ10段階に区分し、両者の相関図表を用いて選抜する。
 調査書点は、必修科目としての音楽、美術、保健体育及び技術・家庭の4教科の評定を2倍にして、国語、社会、数学、理科及び外国語の評定と合計して算出する。
- (3) 相関図表を用いて選抜する際、第1次選抜において、上位の者から定員（推薦入試合格者数を除く。）の約80%を選抜し、次いで定員（推薦入試合格者数を除く。）の40%以内の人員を対象として、更に細分化した相関図表を用いるなどして第2次選抜を行う。

※イメージ図



③傾斜配点について

※平成20年度選抜要項より

8 傾斜配点

- (1) すべての高等学校は、学校があらかじめ指定する教科によって配点の比重を変える傾斜配点を採用することができる。
なお、総合学科にあつては、前記によらず、出願時に本人が申し出た教科によって配点の比重を変える傾斜配点を採用することもできる。ただし、両者の併用は認められない。
- (2) 傾斜配点ができる教科数は1教科又は2教科とし、傾斜配点の倍率は1.5倍又は2.0倍とする。
- (3), (4) (略)

※傾斜配点実施校（平成20年度入試）

学校名	学科・コース	傾斜配点実施教科	傾斜倍率
仙台向山	理数科	英語, 数学	各1.5倍
仙台東	英語科	英語	2.0倍
泉館山	普通科	英語, 数学	各1.5倍
多賀城	普通科	英語, 数学	各1.5倍
富谷	普通科・人文コース	国語	2.0倍
富谷	普通科・国際コース	英語	2.0倍
富谷	普通科・理数コース	数学	2.0倍
古川	普通科	英語, 数学	各1.5倍
古川黎明	普通科	英語, 数学	各1.5倍

*自己申告による傾斜配点実施校はなし

4

選抜資料としての調査書の活用について

調査書

※No. 性別 男 女 氏名

氏名は生徒指導要録(字録簿)記載のとおりにワープロで書けない文字は手書きも可。ゴム印は不可。

卒業見込 卒業 平成 年 月

出願校名 地方機関等文書編程(教育関係法規宮城県編)による略記も可。 全・定(昼・夜・I・II・III)・通

調査書等作成委員会 主任 記載 責任印

以上のとおり相違ないことを証明します。

平成 年 月 日

学校所在地・学校名

校長氏名

印

1 各教科の学習の記録 (1) 観点別学習状況

教科	観点	学年	1	2	3	※
国語	国への関心・意欲・態度					
国語	語彙・聞く能力					
国語	書く能力					
国語	言語についての知識・理解・技能					
国語	社会現象への関心・意欲・態度					
国語	社会的思考・判断					
国語	質疑応答の技能・表現					
国語	社会的規範についての知識・理解					
国語	読者の関心・意欲・態度					
国語	読者の見方や考え方					
国語	読者の表現・処理					
国語	読者、図対などについての知識・理解					
国語	自然現象への関心・意欲・態度					
国語	科学的思考					
国語	自然現象の表現					
国語	自然現象についての知識・理解					
国語	音楽への関心・意欲・態度					
国語	音楽の技能・表現					
国語	音楽の表現・表現の工夫					
国語	表現の技能					
国語	鑑賞の能力					
国語	美術への関心・意欲・態度					
国語	絵画や構図の能力					
国語	創造的才能					
国語	鑑賞の能力					
国語	運動や健康・安全への関心・意欲・態度					
国語	運動や健康・安全についての思考・判断					
国語	運動の技能					
国語	運動や健康・安全についての知識・理解					
国語	生活や技術への関心・意欲・態度					
国語	生活を工夫しし創る能力					
国語	生活の技能					
国語	生活や技術についての知識・理解					
国語	コミュニケーションへの関心・意欲・態度					
国語	親の能力					
国語	理解の能力					
国語	語や文法についての知識・理解					

◎ 記載に当たっては裏面の調査書作成上の留意事項を参照のこと。

3年間の評定(音楽係保收は之停)の合計が調査書点

1 各教科の学習の記録 (2) 評定

教科	学年	1	2	3	※
国語					
社会					
理科					
外国語					
音楽					
美術					
保健体育					
技術・家庭					
選択教科	学年	1	2	3	※
国語					
社会					
理科					
外国語					
音楽					
美術					
保健体育					
技術・家庭					

2 総合的な学習の時間の記録 (1) 学習活動

(2) 学習評価の観点の中で顕著な事項や成長の様子

「2 総合的な学習の時間の記録」について全員について記入する。

7 その他の事項

「7 その他の事項」について必要事項を番号で示し、生徒指導要録に基づき記入し、生徒指導記録に基づき記載する事項がない場合は斜線。

3 スポーツ活動、文化活動、社会活動、ボランティア活動、活動の特記事項

4 特別活動等の特記事項

(1) 学級活動 (2) 生徒会活動 (3) 学校行事 (4) その他

5 行動の記録

基本的な生活習慣 思いやり・協力 生命尊重・自然環境 健康・体力の向上 勤労・奉仕 自主・自尊 公正・公平 責任感 創意工夫 公共心・公德心

6 欠席の状況

1 欠席日数

2 欠席の状況

3 欠席の理由

「6 欠席の状況」について学校保健健康法施行規則による欠席停止事由を記入し、欠席日数が各学年ごとに7日以下の場合にはその理由を各学年ごとに斜線(複数事項を記入する場合は斜線)で示す。

-12-

5 生徒の多面的な能力を評価するための入試、複数の受検機会について

①東北6県の入試日程(平成18年度～20年度入試)

平成18年度入試	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島
公立推薦(前期・I期)入試日	前期2.22		1.31	前期2.2	2.9	I期1.31
私立一般入試日	2.14～15	1.19～28	2.1～3	2.14	2.1	1.16～2.21
公立一般(後期・II期)入試日	後期3.14	3.7～8	3.8	3.7	3.10	II期3.8
公立第二次募集(後期・III期)入試日		3.22	3.22～23	後期3.22	有。但し要項に試験日の定め無。	III期3.23

平成19年度入試	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島
公立推薦(前期・I期)入試日	前期2.26	1.24	1.31	前期2.1	2.8	I期2.5
私立一般入試日	2.14	1.13～26	2.1～5	2.14～16	1.23～2.3	1月上旬～2月中旬
公立一般(後期・II期)入試日	後期3.15	3.8	3.7	3.6	3.10	II期3.8
公立第二次募集(後期・III期)入試日		3.22	3.20～22	後期3.22	有。但し要項に試験日の定め無。	III期3.22

平成20年度入試	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島
公立推薦(前期・I期)入試日	前期2.26	1.30	1.31	前期1.30	2.12	I期2.4
私立一般入試日	2.13～14	1.16～28	2.1～4	2.14～16	1.23～2.10	1.14～22
公立一般(後期・II期)入試日	後期3.14	3.11	3.6	3.5	3.10	II期3.10
公立第二次募集(後期・III期)入試日		3.25	3.19～21	後期3.19	有。但し要項に試験日の定め無。	III期3.24

②入学者選抜事務日程

平成20年度 入学者選抜		平成19年度 入学者選抜	
1/1	火	1/1	月
2	水	2	火
3	木	3	水
4	金	4	木
5	土	5	金
6	日	6	土
7	月	7	日
8	火	8	月 (成人の日)
9	水	9	火
10	木	10	水
11	金	11	木
12	土	12	金
13	日	13	土
14	月 (成人の日)	14	日
15	火	15	月
16	水	16	火
17	木	17	水
18	金	18	木
19	土	19	金
20	日	20	土
21	月	21	日
22	火	22	月
23	水	23	火
24	木	24	水
25	金	25	木
26	土	26	金
27	日	27	土
28	月	28	日
29	火	29	月
30	水	30	火
31	木	31	水
推薦入試・連携型入試		推薦入試・連携型入試	
2/1	金	2/1	木
2	土	2	金
3	日	3	土
4	月	4	日
5	火	5	月
6	水	6	火
7	木	7	水
8	金	8	木
9	土	9	金
10	日	10	土
11	月 (建国記念日)	11	日 (建国記念日)
12	火	12	月 (振り替え休日)
13	水	13	火
14	木	14	水
15	金	15	木
16	土	16	金
17	日	17	土
18	月	18	日
19	火	19	月
20	水	20	火
21	木	21	水
22	金	22	木
23	土	23	金
24	日	24	土
25	月	25	日
26	火	26	月
27	水	27	火
28	木	28	水
29	金	29	木
30	土	30	金
31	日	31	土
3/1	月	3/1	木
2	火	2	金
3	水	3	土
4	木	4	日
5	金	5	月
6	土	6	火
7	日	7	水
8	月	8	木
9	火	9	金
10	水	10	土
11	木	11	日
12	金	12	月
13	土	13	火
14	日	14	水
15	月	15	木
16	火	16	金
17	水	17	土
18	木	18	日
19	金	19	月
20	土	20	火
21	日	21	水
22	月	22	木
23	火	23	金
24	水	24	土
25	木	25	日
26	金	26	月
27	土	27	火
28	日	28	水
29	月	29	木
30	火	30	金
31	水	31	土

③推薦・一般・第二次募集の出願・合格状況（平成19・20年度入試・全日制）

	平成19年度入試			平成20年度入試		
	推薦入試	一般入試	第二次募集	推薦入試	一般入試	第二次募集
定員	5,538	11,653	834	5,372	11,261	642
出願者数	7,058	14,517	316	6,605	13,933	233
倍率	(1.27)	1.25	(0.39)	(1.23)	1.24	(0.36)
合格者数	4,719	10,841	279	4,658	10,652	199

④受検の回数について（第二次募集を除く）

受検機会	メリット	デメリット
推薦・一般の2回実施	<ul style="list-style-type: none"> ・複数回の受検可能 ・「入りたい学校」の積極的選択 ・選抜方法の多様化・選抜尺度の多元化により多面的な能力評価可能 ・特色ある学校づくりにつながる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校長推薦を得られるか否かで受検機会に差 ・学力検査がないことによる学力向上の阻害 ・推薦合格者の高校入学までの期間長く学習意欲が低下しやすい。 ・入試期間長期化・早期化，入試事務煩瑣
一般入試のみ実施	<ul style="list-style-type: none"> ・全員の学力検査受検により基礎学力担保，学力向上への契機 ・公立高校希望者全員を3月の入試まで学習指導で牽引 ・合格から高校入学までの期間短かく高校での学習にスムーズに移行 ・入試期間短縮，入試事務軽減 	<ul style="list-style-type: none"> ・受検機会1回のみとなる可能性高く，合格優先で「入れる学校」選択 ・学力に偏った一面的評価 ・偏差値による輪切りとなる可能性 ・生徒の多様な能力を評価しにくい。